

あいめーる

WINTER

愛隣館通信

令和6年3月5日発行
発行
社会福祉法人 愛隣園
障害者支援施設 愛隣館
発行責任者 三浦貴子
編集 広報チーム
キャリアビジョン

〒861-0551
熊本県山鹿市津留 2022
TEL 0968-43-2771
FAX 0968-43-2793
http://aileans.com
E-mail
ailinkan@magma.jp

この度能登半島地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます



た。
事が出来たクリスマス夜の夜でし
積み重ねられるようにと改めて思う
方々が楽しめる瞬間を一つでも多く
一つひとつの行事を通し、利用者の
感染症対策を継続して行いながら、
今後も新型コロナウイルス等への
感じる雰囲気があるにありました。

ど、各施設より素晴らしい演出をし
て頂き、久しぶりのせいか懐かしさも
居者の皆さんの夢をアニメタッチに仕上げたムービー上映な
達のダンスお披露目、愛隣館新任職員初々しいダンス。入
ンザの感染により、急遽動画での参加となった愛隣園子ども
のタリトリアデシヨナル(インドネシアの伝統舞踊)インフルエ
荘職員、北原様のギターの弾き語り、愛隣の家職員、スクマ様
する事が出来ました。一番の賑わいを見せる出し物は、愛隣
で行っていた「クリスマスの集い」も、今年は以前の様に開催
昨年までの三年間は、新型コロナウイルスの影響で縮小し
のひと時を過ごすことが出来ました。

添え、利用者、職員、皆満面の笑みを浮かべて楽しいディナー
のひと時を過ごすことが出来ました。
りました。
の乾杯の音頭で、今年の「愛隣館クリスマスディナー」が始ま
令和五年十二月二十四日(日)、入居者代表の東智徳さん

法人愛隣園
クリスマス集い
ケア課チーフ 徳丸 春美



「能登半島地震被災施設を

訪問して」



館長 三浦 貴子

二月十八日、能登半島で被災された石川県の三施設を、全国身体障害者施設協議会の役員で訪問させていただきました。

一月二日より現地を十回以上往復して物資を運ばれている、田原副会長(福井県 金津サンホーム) 運転のマイクロバスで、七尾市の青山彩光苑ライフサポートセンター(龍野施設長)、穴水町の青山彩光苑 穴水ライフサポートセンター(今寺施設長)、隣接の石川精育園の一部を視察。輪島市火災の跡地まで案内を頂きました。半分は倒壊している片側通行の道路、山の中腹から樹木をなぎ倒して土砂崩れをし、民家をのみこんでいる箇所も複数。施設では、地面から三十cm程はがれて浮いている外付けの階段や、浴室壁などいたるところに亀裂が入り、また地下浄化槽が1m以上地上に浮き上がって破損している状況などを見ました。

発災から一ヶ月半で、配管破損のため下水が使えない、上水は七尾の施設を除いて使えるようになった現状の中、利用者の方々は、四十日間入浴できなかったそうです。穴水では、訪問入浴車を社協に借りて一人ずつ入浴支援をはじめ、七尾では、二月十三日から系列施設を全て使って入浴が出来たと施設長が嬉しそうに話されました。食事は現在、セン

トラルキッチンを利用しているとのこと。

全国身障協では一月四日に対策本部を設置し、先行して二日より支援に動いた東海・北陸ブロックの田原さんのコーディネートで、全国からの物資を届けています。

九州ブロックからの清拭使い捨てタオル、ドライシャンプー、よもぎローション等も現地で活用されていました。一月二十六日からは、穴水ライフに人的派遣をはじめ、九州ブロックの担当は五月を予定しています。

甚大な被害を受けた、知的・精神の精育園の日常活動展示のなかに、ボトルのふた利用アートで、大きなまもんに「がんばれ熊本」と描かれており、胸がつまりました。熊本地震の時、罹災証明書取りに役所へ行ったら、石川県のシャーパーを着た人に手続きをしてもらった。恩返しをしたいと思います。ご家族もいます。

能登の復旧までの長い時間を共に歩ませて頂きたいと思います。

第四回スーパームーン

懇談会とみかん狩り

スーパームーンの懇談会とみかん狩りを十一月十八日(土)に開催。五十二名のご家族が参加され、子ども達から保護者への感謝の言葉を伝える場面もあり、心温まる会となりました。

その後、みかん山に移動し、宝探しをするように楽しみながらハサミで収穫。自然の中で交流を深めることができました。

玉名日帰り旅行

ケア課サブチーフ

本田 智子

十一月二十一日(水)、玉名市にある「蓮華院誕生寺 奥之院」へ利用者四名・職員二名で行ってきました。

この日は晴天に恵まれ、絶好の旅行日和でした。境内に入る門まではとても長い坂道で、僧侶を志す方々の功德を積む生き方に思いをさせました。境内には、世界最大級の大梵鐘「飛龍の鐘」や五重塔があり、その名の通り圧巻でした。静寂の空間と丁寧に手入れされた庭作りに心が洗われ、利用者の方々も穏やかな表情で散策を楽しまれていました。帰り際、売店で購入した甘酒を飲み、ほっこりした気分で帰路につきました。日常に感謝をしつつ、だれかの幸せを願う…そんな人でありたいと感じた一日でした。



くまもと障がい者芸術展

ディケア

大坂 芽生佳

十一月七日(火)〜十二日(日)熊本県立美術館にて開催されたくまもと障がい者芸術展に本館、ディ

ケア、愛隣倶楽部の皆さん計二十一作品が展示されました。

今年は
コロナウ
イルスが
五類に移
行したこ
ともあ
り、外出
行事とし
て熊本県



立美術館での観覧を行うことが出来ました。
陶芸や手芸、イラスト、習字など個性溢れる作品
が展示会場に並べられていました。

その中で心に残った作品として、デイケアご利用
の吉本やす代さんの陶芸作品「しあわせおせち」が
美術部門工芸の部でたくさんの方の支持を受けられ、ハ
ートウィーク賞を受賞。約一年半の期間をかけて作
った作品ということで、おせち料理一つひとつに細
部までこだわったことが伝わってくる作品となつて
います。

大牟田日帰り旅行

愛隣倶楽部 緒方 奈実子

十一月二十九日(水)、男性二名、女性一名の方が
大牟田日帰り旅行に参加されました。

「コロナ禍もあり、久しぶりの外出行事という事で
皆さんとても楽しみにしていた「大牟田イオンモー
ル」に到着。

旅行に参加した瀬口直子さんは、ご本人の希望に

よりゲー
ムセンタ
ーで念願
のクレー
ンゲーム
に挑戦。
店員さん
に取り方
のアドバ
イスを受け「コツを掴むと次々に商品を獲得し声を上
げ喜ばれ大満足でした。



皆さん買い物やウインドショッピング、ご家族へのお土産や何を食べようか悩んだり、笑顔あふれる一日となりました。

愛隣館 初詣

冬日和の一月二十七日(土)、彦岳宮(下宮神社)へ午前・午後に分れて利用者二十名、職員九名で初詣に行きました。

彦岳宮は愛隣館から歩いて十五分程のところであり、利用者、職員共に頑張つて神社まで歩きました。それぞれ心の中で「健康」や「家族の長寿」などをお願いしました。松の内からちよっとズラしての初詣となり、皆様へのお願い事も込み



合っており、きつと願いが叶うことでしょう。

新しい仲間

デイケア利用

高木 節成



皆さん、始めまして。作年の十月から毎週木曜日
デイケアでお世話になっていきます。

以前は、会社員をしながら稲作を頑張っていました。

利用初日は、カレーライス大盛りで美味しく楽しい一日を過ごせました。今は週一回ですが人数に余裕があれば増やして頂きたいとすべに感じました。木曜日の陶芸教室に参加して色々な作品を作り家に持ち帰って家の玄関に飾っています。

これからも沢山友達を作つて楽しく過ごせたらと思っています。お風呂も楽しみです。職員の皆様宜しくお願いします。
(代筆:妻)

新人職員紹介

ケア課

山本 麻衣



十一月に入職した山本麻衣といいます。数年ぶりの介護は忘れていた事、慣れない事、未経験な事が山程ありますが、諸先輩方に丁寧に指導いただけることに感謝しています。

又、愛隣館で過ごされているご利用者とも少しずつ距離を縮められたらと思います。慣れない内は「この人は誰だろう?」と思われる事となりますが、「ご利用者の一声ひとこえを大事に寄り添っていきたい」と思います。

まだまだ未熟で学ぶ事もたくさんありますが、優しいご利用者や先輩職員方のもと、一生懸命に励んでいきたいと思っています。

アートブリュット展覧会 Vol.9

ディケアサブチーフ

久武 康博

今年も由緒ある熊本県立美術館にて、九回目を数えるアートブリュット展覧会が開催されました。この展覧会は、いつの間にか多くのファンが存在し、何よりも地域に根付いた一大イベント。今年は韓国の作家も参加しました。そのファン層は様々で、会場には年齢、性別に関

わらず純粹にアートが好きで楽しんでる人が多く見られます。作家森山さんの作品の前では、二人組の来場者が「この発想って凄い」と言って、しみじみと作品を鑑賞されています。何気ない会話でしたが、他人を通して作品の凄さやおもしろ



さを感じる事ができました。会期中、多くの人に来場頂きアートブリュットの世界を自由な発想で楽しんで頂きたいと思っています。

国・県・企業をはじめ、異業種の沢山の方々携わり支え合って開催されているこの展覧会が、これからも地域と融合し発展しながら人々や社会を魅了し続けてほしいです。

*次回、アートブリュット展覧会Vol.10
令和六年十二月開催予定

労働安全衛生委員会

小春日和となった十二月九日(土)、愛隣館労働安全衛生委員会企画の「第一回健康づくり〜彦岳ハイク&みかん狩り」を開催しました。当日は、職員・家族を含め二十三名が参加。ハイク行程にはヤギに餌やりも企画していて、子ども達が恐る恐る餌をあげているのが微笑ましくもありました。

大人はヒーヒー言いながら、子ども達は競うように登った岳では、一面美味しそうなみかんが実っていて、それぞれ鉢と籠を持ってみかん狩りを楽しみました。「こう切ると良いよ」「あつちのみかんが甘いみたい」とあちこちから聞こえ、健康づくりを目的にしたこの企画は、職員間の円滑な



三浦一水理事長を囲んで

「ミニエーション」にもつながっているようにでした。その後、お土産の袋いっぱいのみかんと一緒に車で下山していた大人たちを尻目に、子供たちは走って下山していきました...

日常風景の「コマ

利用者の皆さんの日常の様子を掲載しています。

吉里昭子さん

お母さんが作る赤飯は、とても美味しいです。



黒田敏文さん

念願の阿蘇(萌の里)に行ってきました。天気も良く最高でした。



お知らせ

◆愛隣館家族報告懇談会

令和六年三月八日(金) 開催

◆「身障協 SAVE NOTOT」シャツ支援プロジェクト

Tシャツ・ジャンパー等を販売中
一枚当たり七〇〇円を被災施設へ
(チラシと注文書は、当ホームページにも掲載致しております)